輝く“ふくろい”まち・ひと・しごと創生会議

地方創生 やらまいか通信 vol. 157

輝く未来へ今、袋井が動き出す！～挑戦するDNAを呼び起こせ～

発行日：平成30年10月31日
発　行：袋井市総合戦略室

第８回健康都市連合国際大会で受賞

「日本一健康文化都市」に向けた取組成果

WHO 表彰とAFHC 表彰の 同時 5 部門受賞の快挙

2018.10.17-19@マレーシア

マレーシア・クチン市で開かれた「第８回健康都市連合（AFHC）国際大会」で優れた健康都市の取組に対し世界保健機関（WHO）が贈る「ベスト・プラクティス賞」など５つの賞に輝いた。

（WHO表彰）ベスト・プラクティス賞

健康的な食品環境を通じての健康食習慣の促進

（論文タイトル）「生産者が参加する食育活動と学校給食を活用した健康的食習慣の推進について」

食生活の基礎を定着させ生活習慣病予防を推進する安心・安全な地場産農産物を活用した学校給食による食育の事例紹介。地場野菜を活用した児童の野菜摂取量の増量や地域経済の活性化、アレルギー対応給食の提供など、食を通じた学びや地域とのつながりなどの取組を記述。

（AFHC表彰）クリエイティブ・ディベロップメント賞

健康都市プログラムを通してのSDGｓの達成

（論文タイトル）
「日本一健康文化都市に向けた袋井市のまちづくり」

誰もが生き生きと安心して暮らすことができる地域社会を目指し、行政と地域、市民と連携した事例紹介。「日本一健康文化都市宣言」や「日本一健康文化都市条例」の制定をはじめ、健康運動サポーターや健康づくり推進員の活動、高齢者就労の促進（3DWO構想）、コミュニティセンターを核とした地域活動など総合計画の３つの方針に基づく取組を記述。

2018.10.17　AFHCアワード授賞式

袋井市の論文 健康国際大会で賞

最多5本 食育などテーマ

表彰状と盾を前に取り組みを振り返る原田英之市長＝30日午前、袋井市役所

　このほどマレーシアで開かれた第8回健康都市連合国際大会に提出した袋井市の論文のうち、5本が賞を受けた。市によると、論文を出したのは世界の延べ52の都市と団体で、韓国の昌原市と並んで最多の受賞数だった。県内では唯一の受賞という。

　行政と地域が連携した健康づくりの取り組みと、学校給食の食育に触れた論文2本が世界保健機関（WHO）表彰のベスト・プラクティス賞に輝いた。健康寿命延伸に向けたまちづくりや、地域主体の災害対策を取り上げた論文2本も健康都市連合表彰のクリエイティブ・ディベロップメント賞を受賞。市によると、他の賞も含めて優劣は無いという。

住まいに、スマイルを。
SBSマイホームセンター

都市の健康づくりの進捗（しんちょく）を評価するプログレス賞のうちグッド・インフラストラクチャー賞も授与された。

　原田英之市長は大会のフォーラムで取り組みを発表。30日の定例記者会見で受賞について、「1993年に当時の豊田舜次市長が掲げた日本一健康文化都市の取り組みで、現在に至るまでの集大成となった」と述べた。

　市によると、同連合は西太平洋地域を中心に、健康推進に取り組む地方自治体や政府、民間組織などで構成。9月現在で234団体が加盟している。

平成30年10月31日　静岡新聞（朝刊）